1.　評価結果概要表

［認知症対応型共同生活介護用］

【評価実施概要】

事業所番号	4570200818
法人名	社会福祉法人　恵愛会
事業所名	グループホームめぐみ
所在地	宮崎県都城市太郎坊町563番地2 （電　話）0986－38－8811

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成　21年　9月　4日

【情報提供票より】（21年7月31日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　14 年　5 月　1 日		
ユニット数	ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	18　人	常勤　12 人，非常勤 6 人，常勤換算　15.7人	

（2）建物概要

建物構造	準耐火鉄筋コンクリート造り
	2階建ての　1 階　～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	33,000　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		☑無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） ☑無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	230　円	昼食	500　円
	夕食	500　円	おやつ	150　円
	または1日当たり	1,380　円		

（4）利用者の概要（　7月31日現在）

利用者人数		18 名	男性	5 名	女性　13 名
要介護1		1　名	要介護2	5　名	
要介護3		7　名	要介護4	5　名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均	87.8 歳	最低	71　歳	最高　97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	坂元医院、東歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園や畑が広がる180度の大パノラマの環境にたたずみ、社会福祉法人に併設してある特別養護老人ホームをはじめ、多くの複合施設や介護サービス事業所の一角にあり、法人内部だけでも多くの社会資源であふれている。そのような環境の中で利用者は、笑顔で安心して生活できている。ホームの地域密着型の理念は、地域とのふれあいの中で、多くのボランティア等の支援を受けながら、着実に地域の中にある家庭的なおもてなしができるためのサービスを職員一丸となって取組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回評価でさらに取組んでいただきたい項目（計画の見直し期間、食事を利用者・職員一緒に楽しむ取り組み、災害対策）については、職員全体での協議はあったが、適切な改善のための計画が策定されておらず、具体的な取り組みはなお今後の課題となっている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員のほとんどが、ユニットごとの自己評価シートの項目にも目を通し、職員会議の中で自己評価の検討に参加している。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 委員から出された意見については、月一回の職員会議で報告している。また前回の外部評価については、運営推進会議で委員に報告している。運営推進会議の委員には、地域代表者としてボランティアや消防団員もおり、様々な地域性のある意見も出されている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族への報告は定期的な文書報告以外には、随時電話等での報告を欠かさない。また家族からの意見や苦情に対しても、迅速に職員間で協議し家族への説明や報告ができている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** ホーム周辺には民家はほとんどなく、地域の社会資源の活用も距離がある。しかしホームは地域の自治会加入を早くから検討し、自治会長に打診しており、加入に向けた取り組みも行っている。またボランティアの招聘によるアクティビティ活動なども取り入れながら、ホームの利用者が、地域住民とのふれあいの機会が増えるような工夫をしている。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまで3回ほど見直されてきた理念は、地域密着型のサービスを基本とした地域性のある理念として定着している。また法人の理念、介護理念もホームの理念と併せてホームの見やすい位置に掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はホームの理念に沿って利用者支援を実践するために、毎日のミーティングで唱和し、確実に職員の接遇や支援の姿勢に現れるように努力している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺には民家はないが、地域の自治会加入を計画している。また地域の保育所やボランティアに呼びかけて、利用者とのふれあい交流ができるようにしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はユニットごとに自己評価に参加し、全員が自己評価及び外部評価の意義についての理解に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、地域代表者としてボランティアや消防団の参加もある。委員からの意見は職員会議の中で報告し、利用者支援のための助言として真摯に受け止めながら検討している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、利用者支援を中心としたことなどについては、管理者が連絡調整を図るようにしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通常の報告は家族面会の際や電話での報告が多いが、緊急を要する場合には迅速な報告や連絡をしている。また金銭出納簿の確認も定期的に行なっている。またホーム内の主な行事には必ず家族にも案内している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情等については、職員会議で検討した結果を迅速に家族に回答するようにしており、運営推進会議での意見と併せて職員協議をしている。また苦情処理マニュアルを作成し、第三者委員を法人内部に置いてリスクマネジメントを実践している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は2ユニットをまたいで勤務シフトを組んであり、ユニット間の異動があっても利用者への影響はほとんどない。その他の異動や退職があった場合にも、利用者には早いうちから話をするなど影響が少ないようにしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外部での研修や勉強会は豊富にあり、ホーム単独での内部研修会も月１回の職員会議で行なっている。外部研修へは、全職員が公平に参加できるように配慮し、参加した職員はその研修内容を職員会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会・県南ブロックの参加や他のグループホームとの連携の中で、情報交換や交流が図れるように取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者と家族に面接しホームの見学をしていただき、希望に応じて日中だけの体験利用をしてもらうなどの工夫をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者に寄り添いながら、昔の慣習や言葉などを教えてもらったり、料理の方法なども語らいの中で自然に学ぶ機会を得ることができている。		
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日課のない生活の中で、利用者の日替わりの意向に沿いながら支援するように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員が、介護計画作成担当者との連携の中で、日々の状態変化等について報告したり、担当者が本人や家族の意向を聞いて、カンファレンスをするようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者のケース台帳の記録は、介護計画に沿った評価や行動の記録になっている。しかし介護計画全体評価は3か月毎、見直しは6か月毎となっており、実情に応じた見直しとはいえない。	○	介護計画の進捗状況についての定期的な評価は毎月、計画の見直しは3か月毎に行ない、作成後の本人家族への説明や同意も必要とされるので、利用者の実情にあった介護計画の作成ができるようにしてほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外出や受診はホームの職員で対応するようにしている。また外部からの宿泊や家族の宿泊などについての受け入れもできるようにしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医は様々であるが、ホームの設置母体が医療機関でもあり、利用者の多くは母体の医療機関を主治医としている方も多く、連携は十分に取ることができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的管理や治療が必要な利用者は入院することがホームの方針ではあるが、現在食事介助等の支援が必要な重度の利用者もあり、重度利用者の援助について、支援していくための方向付けが介護計画によってできている。また職員は利用者をひとつの家族として意識し、看取りについての話し合いも随時行なっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけはさりげないトーンで、利用者の自尊心に配慮している。また利用者個人の台帳等の管理は、事務所にきちんと整理され保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はゆったりした、時の流れの中で自然に身を任せながら過ごしている。職員も利用者のペースに合わせながら支援している。時には外出や買い物の希望があれば、臨機応変に対応することができている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は週1回ホームで作り、夕食とその他の日は、法人内の併設特別養護老人ホームから食事を運んでいる。週1回の昼食の日には利用者と職員が一緒に作り、同じ食事を食べながらコミュニケーションに華を咲かせている。	○	週1回の食事づくりの日には、利用者が野菜を切ったり、味付けをして共同作業で楽しみを創っている。また同じ食事を囲んでのコミュニケーションもできているので、このような日が、今後週に1回から2回、3回に増やせることで、利用者の楽しみごとも増えていくことが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者ひとり週3回の入浴が確保できており、希望に添って、また毎日の入浴についても希望があれば対応するようにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は個別に、食器拭きや掃除、洗濯物たたみやゴミ捨てなどの役割があり、毎日の日課として定着している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的な外出支援は計画通りできている。また日常的に近所の散歩などもできている。2階の利用者も個別のニーズに合わせた支援ができている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの職員には玄関等に鍵をかけるという概念はなく、勝手口なども常にオープンにしてある。仮に無断外出があっても見守り体制について検討するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3か月毎に実施される災害訓練は、ホーム単独の訓練ではなく、法人全体の訓練であり、地域住民等の参加はみられない。	○	法人全体の訓練のほかにも、地域性のあるホームの理念にもあるように、地域住民の理解と協力を得て実施できるホーム単独の災害訓練ができるようにしてほしい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態についての相談は、併設特別養護老人ホームの栄養士の指導を受けている。また食事の時に食欲のない利用者に対して、おにぎりごはんにして食欲をそそったり、食べやすいように小さめの茶わんを使うなどのさりげない個別支援ができている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは利用者が移乗しやすいように、後付の手すりを設置したり、トイレなどの表示を大きくするなどの配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が生活しやすいように、またくつろげるように希望に添って畳を導入したり、利用者が使い慣れた家具などが持ち込まれており、個性のある居室づくりができている。		